

No 33  
31 Oct. 2011

日本・パプアニューギニア協会会報

ごらくちょう

Bird of Paradise

発行 NPO法人 日本・パプアニューギニア協会

発行日 平成23年10月31日

編集 NPO法人 日本・パプアニューギニア協会広報部 〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-17 千代田会館6F(ニューギニア航空日本支社内) TEL 03-5216-3555 FAX 03-5216-3556

## 日本・パプアニューギニア協会会員のみなさまへ

ラッセル・デカ・原田 (ゴロカ大学 ICTマネージャー)

東ハイランド州、ゴロカにある国立ゴロカ大学で Information and Communication Technology マネージャーをしております、原田武彦です。この国唯一の国立高等教育教員養成学校で、停電にも負けず、学生やスタッフからのクレームにもめげず、日々悪戦苦闘しております。インターネットを使っただけの教育改革が最終的な目標ですが、光ファイバーの張り巡らされた日本の都市とは違い、ここゴロカでは、大学といえども高価な衛星経由のインターネットしかありません。早ければ年内にマダンから送電線を使って光ファイバーがゴロカまで到達するかもしれませんが、この国の電力会社のことです。いつになることやら……。

国全体としては、LNG(液化天然ガス)の好景気に支えられ、7%を越す経済成長が見込まれているようですが、それは首都ポートモレスビーのような大都市の話で、地方の町や村の話ではありません。小学校の1年間100キナの学費が支払えない村の人々がたくさんいる一方で、ポートモレスビーでは1週間の家賃が3千キナもするのが当たり前、このくらい差が開いています。

今年の3月に起きました東日本を中心とした地震や津波、また原子力発電所の事故は、ここパプアニューギニアでも大きく報道されました。被害に遭われました方へのお悔やみを申し上げますとともに、1日も早い復興を遠くからお祈りしております。

ポートモレスビーでは、ポートモレスビー日本人会の方々が中心となって義捐金活動を行ったようですが、ここ地方都市のゴロカでも、ゴロカ大学の学生とスタッフが中心となり、地元のFM局を巻き込んで義捐金を集める活動を行いました。

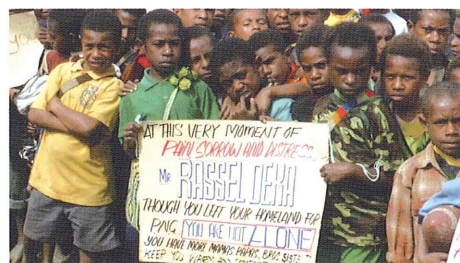
まずはじめに行ったゴロカの街中を手押し車を押しての募金集めでは、多くの町の人たちが10トヤ(3円)から1キナ(35円)までの硬貨を小額ではありますが、被災された方への気持ちだと言って寄付してくださいました。

また、多くの村の小学校からも呼びかけがあり、全て小額ですが、合計で集まった義捐金は2万4千キナ(約84万円)、寄付にかかわってくださった方の数は軽く5千人を超える大きな活動となりました。日本の読売新聞に写真つきで記事が掲載されたことから反響も大きく、横浜や大阪の方からこちらの村の小学校へお返しを頂いたのには、逆にこちらが感謝の気持ちでいっぱいになりました。

こうした活動を通じて、より多くの日本の方々から草の根レベルでのパプアニューギニアの人々の暮らしに関心をもっていただければと思っております。

この国に骨を埋めるつもりで活動しておりますが、4年半以上も日本には帰っていませんので、そろそろ日本が恋しくなってきました。が、この先もこの国の人たちと、主にICTと教育を通じて共に頑張りたいと思っておりますので、ご支援ください。

e-mail: russelldeka@gmail.com



# 理事会 総会

平成23年6月28日、霞山会館(東京都港区)にて、当協会理事会、総会が開催されました。

山下会長をはじめ12名の理事、多数の会員が

出席し、22年度活動報告、決算報告および承認、23年度活動計画、予算案審議および承認、役員および理事の承認がなされました。



## 平成23年度 NPO法人 日本・パプアニューギニア協会 役員一覧

- 名誉顧問 大河原 良雄(財団法人世界平和研究所理事長、元駐米日本国大使)  
 名誉顧問 マイケル・マウエ(パプアニューギニア外務省次官、前駐日パプアニューギニア特命全権大使)  
 名誉顧問 ガブリエル・ドゥサヴァ(駐日パプアニューギニア特命全権大使)  
 顧問 堀江 正夫  
 (東部ニューギニア戦友・遺族会会長、元参議院議員、元日本・パプアニューギニア友好協会会長)  
 日本・パプアニューギニア友好議員連盟の諸先生  
 [代表 村田吉隆(衆議院議員 日本・パプアニューギニア友好議員連盟会長)]  
 会長(理事) 山下 勝男 (財団法人霞山会理事兼事務局長、元駐パプアニューギニア日本国大使)  
 副会長(理事) 唐沢 敬 (立命館大学名誉教授 東京国際大学特命教授)  
 副会長(理事) 鈴木 紀久代 (新潟パプアニューギニア協会 事務局長)  
 副会長(理事) 高松 裕満 (協和海運株式会社 代表取締役社長)  
 名誉顧問(理事) 谷口 誠 (桜美林大学北東アジア総合研究所特別顧問、元駐パプアニューギニア日本国大使、元日本国連大使)  
 理事 馬詰 修 (三高物産株式会社 代表取締役)  
 理事 大沼 京三 (株式会社日本墓苑開発センター 代表取締役)  
 理事 賀集イレーネ (アルゼンチン共和国弁護士)  
 理事 川口 正義 (旭化成建材株式会社 海外事業室 室長、日本旅行作家協会会員)  
 理事 長 宏行 (財団法人オイスカ 国際協力部 部長)  
 理事 中村 弘 (晃和木材株式会社 前代表取締役社長)  
 理事 原 晃 (JICA)  
 理事 福島 正光 (株式会社ビーエムコーポレーション 代表取締役)  
 理事 古川 雅彰 (晃和木材株式会社 代表取締役社長)  
 理事 武藤 優 (株式会社パプアニューギニア海産 代表取締役)  
 理事 村越 裕之 (コスモメディア株式会社 代表取締役)  
 理事 山邊 登 (有限会社 PNG ジャパン 代表取締役社長)  
 監事 土屋耕太郎 (土屋法律事務所弁護士)  
 顧問弁護士 中村 哲朗 (小川総合法律事務所 弁護士)  
 事務局長(理事) 島田 謙三 (ニューギニア航空 日本支社長)

# PNG懇親会に参加して

株式会社 グローブ 代表取締役 中村 彰 (当協会会員、PNGツアーオペレーター)

私がツアーオペレーターとしてパプアニューギニアと初めてのかかわりを持ったのは、1979年のことでした。それ以来、観光業の立場から南太平洋を含めたPNGをずっと見続けてきました。

日本・パプアニューギニア協会の懇親会は毎回参加させていただいていますが、観光業しか関わりの無い私がお業種の諸先輩方と話をさせて頂ける唯一の機会でもあり、毎回大変楽しみにしている行事の一つです。

今年は会長の挨拶の中で、3月の東日本大震災に対して、PNG政府が震災発生の際か4日後に日本に1,000万キナ(3億2,000万円)もの義捐金贈与を決定してくれたとの話がありました。「ソマレ首相(当時)ありがとう!」と大変感激すると共に、改めてPNGと日本の絆の深さを感じずには居られませんでした。

出席する度に、PNGに関わる仕事をされている方々が本当に多方面に渡って居られるのだと関心させられて来ましたが、この事実が両国間の絆

をより太く、深いものにしていただいているのだと思います。今後もずっと続いて行くであろうPNGと日本の友好関係の歴史の一ページに携わっているのだと実感します。これから日本はPNGを含めた南太平洋全体の国々ともっと緊密な友好関係を築いていく必要があると思います。非常に大切なことであり、緊急の課題であると思います。その為には、若い力が絶対に必要になってきます。

昨年「ごらくちょう」に寄稿された青年部の国政さんが、“青年部の活動をもっと増やして先輩諸兄の思いを若い世代に引き継がれる必要がある”と発言されています。さらに未来を見据えてPNG及び南太平洋諸国と連携を深め、相互協力の枠を拡大する必要があると訴えて居られます。

私も全くその通りであると思いますし、積極的に青年部の活動の機会を増やすべきであると思います。青年部の活動を支えて十分にバックアップできる組織になることが、今後の活動には絶対必要だと思います。



日本・パプアニューギニア協会  
法人会員紹介 第26回

「みなさん、こんにちは」  
高須クリニック  
高須克弥記念財団です。

〒450-0002 愛知県名古屋市中村区  
名駅1-8-12 菱信ビル4階405号室

TEL052-564-5811  
FAX052-564-5822

「Yes! 高須クリニック」皆さまも一度はお耳にされた事があるのではないのでしょうか。

日本の美容整形・美容外科の先駆者として、1976年に開設された高須クリニックも早35年の歴史を刻むに至りました。

高須クリニックの医業としての歴史を振り返れば、古くは400年以上前の「本能寺の変」で徳川家康が命からがら三河一色へたどり着いた時、介抱をしたのが縁で、家康より「医業」でもって尽くすようにとの命により、その道を歩み始めた時まで遡る事が出来ます。

明治に入り、高須克弥の祖母「いま」が近代医学を習得し、「高須医院」を開業。母「登代子」も医学の道を極め、実に高須家としては100年ぶりの男子「高須克弥」をこの世に誕生させました。医師となった高須克弥は、海外留学の時に触れた「美容整形」という当時の日本では見向きもされなかった分野に着目。人々を幸せにする医療として数々の偏見、中傷を乗り越え、日本を世界最高水準の美容整形大国へと牽引して参りました。クイック二重手術、脂肪吸引・注入手術、オートコラーゲン等、今では当たり前のように思われるものも全て高須克弥が開発・紹介したものです。

今までに受けた多くの方々からの恩を少しでも広く世の中に

お返しをさせて頂く為、これまでも奉仕活動をさせて頂いておりましたが、より良い活動が出来るようにと2011年、「高須克弥記念財団」を設立致しました。

その第1号の活動として、テレビの取材で知己を得たデニス・ベゴ駐日臨時代理大使より要請のあった「パプアニューギニアの子供たちに安心して学べる境遇を」にお応えすべく、PNGに赴き、学校建設の現場視察と調印を行いました。現地からの報告によりますと、ゆっくりながらも着実に建設が始まりつつあるとの事です。完成時には再びPNGを訪れるつもりです。

新しい環境で学んだPNGの子供たちが、将来国を背負って立ち、日本との懸け橋となってくれるであろうことを心から祈っております。



調印式にてゴナ村大首長 MAX TATAKI 氏とゴンベル小学校校長 DAVID GAU 氏  
高須克弥記念財団理事長高須克弥と代表理事西原理恵子



ゴンベルコミュニティスクールの生徒たち

## パプアニューギニア大使館

### 第9回 PNG独立記念、 及び東北被災地支援 チャリティー・ゴルフトーナメント

9月10日(土)、21センチュリークラブ富岡ゴルフコース(群馬県富岡市)にて開催されました。今年は、3月に起きた未曾有の災害によって被災された方々を支援しようと、参加者の皆様にチャリティー募金をお願いしました。



今年の優勝者は、安村浩一様  
に輝き、PNG大使杯を受賞されました。



写真提供:21センチュリークラブ富岡ゴルフコース

**編集後記** パプアを助けて、パプアに助けられる。  
これこそ真の絆だと思いました。(佐藤 直子)

## 日本・パプアニューギニア協会 会員募集

本協会では随時会員を募集しております。お知り合いの方にぜひお声をかけて下さい。  
会員数 2011年9月末 \*法人会員/24 \*個人会員/129

本協会は、日本とパプアニューギニアが友好関係を促進し相互理解を深めることを目的とし、文化、学術、芸術、スポーツ、観光等様々な活動を行っております。どうぞ本協会の活動をご理解下さり、ご協力の程をお願い申し上げます。

申し込み方法/郵便局の振込取扱票にてお申し込みください。  
年会費/個人会員 5,000円 法人会員 50,000円 学生 1,000円 PNG人 1000円

会費受付/郵便振替口座をご利用ください。

口座記号/番号 00140-2-277582

加入者名/日本・パプアニューギニア協会

問い合わせ先/日本・パプアニューギニア協会 事務局

〒102-0074 東京都千代田区九段下1-6-17 千代田会館6階(ニューギニア航空日本支社内)  
電話: 03-5216-3555 FAX: 03-5216-3556 E-mail: info@air-niugini.co.jp